

諫早市美術・歴史館

BIREKIだより

Museum News /vol.32



©円谷プロ

Contents

- 企画展紹介 ……2
- 常設展示室 ……5
- びれきレポート ……6
- みんなの声 ……7

Jul.2023



ウルトラ空想特撮ワールド ～ウルトラマンと夢見る未来～

もうすぐ開幕!! 開催期間 2023. 7. 29 (土) ~ 9. 24 (日)



諫早市美術・歴史館が開館して10周年!
「ウルトラセブン」がこの星に現れて、55周年!
美術・歴史館で、「空想すること」「自由に夢見ること」の楽しさを感じる空間を創造します。



(株)円谷プロダクションの企画協力により、
「ウルトラQ」「ウルトラマン」「ウルトラセブン」
の3作品をベースに「空想する楽しさ」を
感じる企画展を開催します。

「見て」「感じて」、何かを空想し、
「想像」し、それを「創造」する。

この夏、美術・歴史館でヒーローたちと
一緒に新しい未来を創造してみませんか。



©円谷プロ



©円谷プロ

●特別コーナー

～ウルトラマンと諫早～ 市川森一 創造の世界

今展覧会と諫早を繋いだのは、本市出身の脚本家・市川森一（1941-2011）です。『快獣ブースカ』で脚本家としてデビューしました。『ウルトラセブン』や『ウルトラマンA』といったウルトラマンシリーズの脚本にも携わり、その後、数多くの作品を創り出していきました。

今回の『ウルトラ空想特撮ワールド』に合わせて、『快獣ブースカ』や『ウルトラマンシリーズ』関連の資料をはじめ、市川氏の直筆原稿や構想ノートなど「想像」から「創造」へ至る過程や、その足跡を紹介します。



©円谷プロ

●ワークショップや関連イベントも開催

ウルトラヒーローとの記念撮影、いろいろなものを創造するワークショップや開催期間限定のグッズ販売も行います。

また、同時開催として「ウルトラクイズラリー この夏 諫早の謎を追え!」を実施。市内に点在する施設を巡って、クイズに答え、正解数に応じて美術・歴史館での抽選会に参加できます!!

各種イベントの詳細や申し込み方法は、ホームページをご覧ください。



↑ 美歴ホームページ

～市川森一氏と諫早市美術・歴史館～

市川森一氏は、諫早図書館の名誉館長として深く携わられていたことから、図書館内のふるさとの文人コーナーには「市川森一シナリオルーム」が、また、敷地の一角には、その業績をたたえる顕彰碑が建設されていることは、ご存じの方も多と思います。

実は、諫早市美術・歴史館においても建設前の「整備検討懇話会」で「アドバイザー」として関わっていただきました。開館10周年を記念した本展覧会が市川氏ゆかりの作品であることを、感慨深く思います。

毎年11月の最終土曜日には市川氏を顕彰する「森一忌」が、翌日曜日には「文化講演会」が開催されるなど、没後10年を過ぎた現在においても、市川氏は本市の文化芸術の振興に大きく関わっていただいています。



市川森一顕彰碑

いよいよ「諫早大水害展」が始まります！

7月1日（土）～ 7月25日（火） 10:00～18:00

【毎週火曜日は休館日ですが、25日（火）は開館します。】

令和5年度 諫早市美術・歴史館企画展

諫早大水害展

—66年後の被災地—



令和5年
7/1（土）～25（火）

◆会場：諫早市美術・歴史館
I 階ホール・エントランスホール
◆観覧料：無料
◆開館時間：10:00～18:00（最終入場 17:30）
◆休館日：毎週火曜日（但し、7/25（火）は開館）
上：堀越精 上流より（高城町） 昭和32年（1957）撮影 下：令和5年（2023）撮影

関連イベント ※無料・事前申込不要
「諫早大水害写真について」7/17（月・祝）13:30～15:00 講師：当館主任専門員 大島大輔
ギャラリートーク 7/2・9・16・23（日）①10:30～ ②13:30～（1時間程度）

諫早市美術・歴史館 〒854-0014 諫早市東小路町 2-33 TEL:0957-24-6611 FAX:0957-24-6633
E-mail:bireki@city.isahaya.nagasaki https://www.city.isahaya.nagasaki.jp/site/bireki/

昭和32年（1957年）諫早は記録的な集中豪雨に襲われました。

7月25日、午後9時30分頃の3回目の避難命令を知らせるサイレン直後、電灯は消え、いっさいの通信連絡が途絶えました。

人が流され、家が流される生き地獄。絶え間ない雷光と豪雨。自然の猛威を前にして、人間にできることはほとんどありませんでした。

恐怖の一夜が明けた被災地は、死と、泥と、破壊された家々と、足の踏み場もないほどの流木、がれきの山。徹底的に痛めつけられた無残な姿でした。

死者・行方不明者は諫早市内で630名にものぼりました。



流出した蒲生田橋（湯野尾町・富川町） S32年撮影



R5年撮影

知っているようで、知らないことがまだまだたくさんあります。

今回は66年前の被災地と今の様子を展示します。見比べてご覧ください。

毎年、諫早大水害を振り返り、語り継いでいくことは、当館の責務であると考えます。

常設展示の紹介

歴史コーナーの中には、「眼鏡橋」と「諫早大水害」の展示があります。**キーワードは『本明川』**

諫早市の中央を流れる本明川は、「母なる川」とも、「暴れ川」とも言われています。

江戸時代、毎年のように氾濫を繰り返し、橋を架けても流されてしまい、大変な苦労の末、架けられた念願の流されない石橋が「眼鏡橋」です。諫早領主、石工、武士、僧侶、領民らの夢と努力が実ったのは、1839(天保10)年のことでした。それから「眼鏡橋」のその美しさ、頑丈さは諫早の人々の誇りとなりました。外国人の目も釘付けにしたようです。(展示品①)

「眼鏡橋」が完成して118年後の1957(昭和32)年7月25日。一昼夜に800ミリ以上と言われる局地的異常豪雨が諫早を襲いました。1年間の雨量が1800ミリ程度ですから、1日に半年分の雨が一度に降ったことになります。特に、午後10時頃には3時間で300ミリ以上の降水量を記録し、わずか10分で約2メートルも水位が急上昇したそうです。

多くの橋に流木や流された家が詰まり、周りに水が溢れだしました。その中でも、被害を拡大させたのが2000とも言われる流木が詰まった「眼鏡橋」です。(展示品②)

「眼鏡橋は『恨み橋』だ。壊してしまえ!」という声の中、当時の野村儀平市長は奔走し、「眼鏡橋」は石橋では全国初の国指定重要文化財となりました。解体作業と模型作成で明らかになってきた「眼鏡橋」の全貌は、江戸時代の石工たちの知恵の結晶でした。優れた発想や技術の数々は、作業に携わった昭和の職人達に大きな感動を与えたのです。(展示品③ 展示品④)

「諫早の眼鏡橋」は日本一美しい石橋だと言われています。諫早大水害のこともきちんと語り継ぎながら、大事にしていくべき諫早の宝物です。

また、過去、多くの命を奪った本明川は、現在では、整備が進み、安全で多くの市民を癒してくれる場となりました。

これからも眼鏡橋や本明川を郷土の誇りとして大切にしていきたいでしょう。

[参考文献『本明川だより』『諫早大水害20周年復興記念誌』『石橋は生きている』(山口祐造著)]

展示品①



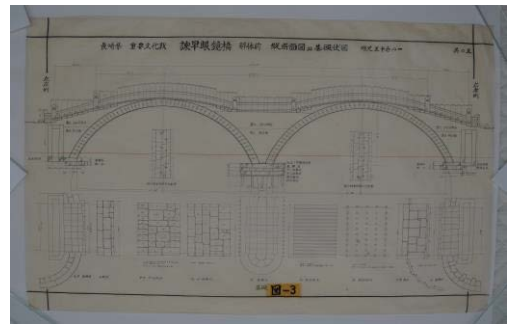
『イラストレイテッド ロンドン ニュース』(部分)
チャールズ ワーグマンの挿絵 1861年

展示品②



大水害の様子の写真

展示品③



展示品は縮尺50分の1図

展示品④



チキリ鉄



ダボ鉄

びれきしポート



美歴こども WEEK 今年も大盛況 ♥

天候不良の日もありましたが
約900名ものお客様に
ご来館いただきました。

子どもたちは、芸術家になりきったり、夢中で作品を作ったりと、とても賑やかな3日間でした。

5/3 (水・祝)
集まれ!
未来の芸術家!

5/4 (木・祝)
変身!
おしゃれに弥生人!

5/5 (金・祝)
めざせ!
ものづくり職人!

諫早市美術・歴史館 開館 10 周年記念
諫早の美術家展
今、そして未来へ

4月15日(土)
~5月14日(日)

諫早で活動されている美術家による書、洋画、日本画、写真、彫刻・工芸、水墨画・南画、デザイン、7部門の迫力ある作品から繊細な作品まで、全155点を一堂に展示。毎日多くのお客様にご来館いただきました♪



オープニングセレモニーや
オカリナ演奏、ギャラリートーク、
アート体験など、会期中に様々な
イベントも開催しました。

みんなの声

プレゼンテーションウォール開放(常設展示替え)

4/5(水)~5/22(月)

高城回廊や御書院の庭園を借景に、展示物を鑑賞出来るよう、壁面を取り除いてガラス面にしています。今年も新緑と焼物のコントラストをお楽しみいただきました。

感想から

・外の風景も作品の一部として鑑賞でき、雰囲気も良かったです。作品を中と外から見る事が出来たので、楽しく拝見しました。
(諫早市 40代)



諫早の美術家展 ~今、そして未来へ~ 4/15(土)~5/14日(日)

感想から



・諫早に、こんなにも素晴らしい作品を生み出す方々がたくさんいらっしゃることに感動しました。とても良かったです!感動!ありがとうございました。
(諫早市 70代)

・枠にとらわれない自由な発想で作られた作品が多く見受けられました。表現方法の幅が広がっているのを実感しました。
(諫早市 30代)

・洋画の大作がインパクトがあり、素材や画材がわかっただけでもっと良かったと思います。思った以上に多くの素晴らしい作品を観ることができ、感動しました。
(諫早市 50代)

・すべての部門ですばらしい作品が多数あって、想像以上の完成された作品に大いに満足しました。作家の皆様が、さらに完成度を高めて発表されることを願っています。
(長崎市 70代)

研修室のご利用 池坊諫早支部の皆さんに研修室をご利用いただきました。

ご利用者から

・毎年1回池坊家元からの講師をお招きして、生け花巡回講座の講習会を2階研修室で開催させていただいております。明るい部屋でお花もよく映えて、準備等では、職員の皆様のご協力のお陰で、無事に終了することができました。ありがとうございました。
(池坊諫早支部一同)



スケジュール (2023年7月～2023年11月)

展示

7/1(土)～7月25日(火)
諫早大水害展

7/29(土)～9/24(日)
ウルトラ空想特撮ワールド
～ウルトラマンと夢見る未来～

10/19(木)～10/29(日)
第68回長崎県美術展覧会
(諫早会場)

11/3(金)～11/6(月)
第62回諫早市美術展覧会

講座・イベント

7/16(日)
歴史講座「江戸時代の武具職人」

10/8(日)
館長講座
「諫早菖蒲日記と諫早の歴史」

10/28(土)
史跡見学「諫早の寺社巡り」

11/19(日)
歴史講座
「江戸時代の力士と相撲興行」

ご利用案内

- 開館時間 / 10:00 - 18:00
- 休館日 / 毎週火曜日 (祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日、特別整理期間
- 観覧料 (常設展示室)

区分	観覧料 (1人1回につき)	
	個人	団体
高校生・大学生・一般	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- 市内在住または市内在学の小・中学生は無料です。
- 教育を目的として小・中・高・特別支援学校生などが利用する場合は、引率の教員を含め、無料です。
- 【その他】 ●ベビーカーや車椅子の貸出、授乳室もご利用いただけます。
- 敷地駐車場 / 30台

- 【アクセス】 ●JR / JR 諫早駅から徒歩約 20 分
●島原鉄道 / 本諫早駅から徒歩約 5 分
●自動車 / 長崎自動車道・諫早 IC から約 10 分
●バス / 長崎県営バス・諫早公園下車 徒歩約 5 分



BIREKIだより Vol.32

編集・発行 諫早市美術・歴史館

〒854-0014 長崎県諫早市東小路町 2 番 33 号

TEL : 0957-24-6611 FAX : 0957-24-6633

E-mail : bireki@city.isahaya.nagasaki.jp

諫早市美術・歴史館の企画展やイベントなどの情報をホームページやインスタグラムなどでお届けしています。

HP <http://www.city.isahaya.nagasaki.jp/site/bireki/>

Instagram @i_love_bireki

homepage



instagram

